



日本記者クラブ
記者会見

ソマリアの過激派を掃討する好機

ハイレマリアム エチオピア副首相・外相

2011年12月5日

2010年からスタートした「経済5カ年計画」で、エチオピアは近年の順調な経済成長を発射台にして、農業立国から工業化志向へ踏み出し始めた。冒頭、副首相は、通信、電力、鉄道、道路などの基本インフラの整備や、産業政策などでの日本の支援と協力を要請した。そのあと、ソマリア、南スーダン（PKOで自衛隊施設部隊が明年2月派遣される）情勢など「アフリカの角」の今を報告した。特にソマリアのイスラム過激派・アルシャバブが敗北の瀬戸際にあり、アフリカ連合（AU）、ケニア、エチオピアなどで構成するIGAD（政府間開発機構）が、掃討作戦の検討に入っていることを明らかにした。

司会 日本記者クラブ企画委員 会田弘継（共同通信 編集委員室長）
通訳 大野理恵（サイマル・インターナショナル）

日本記者クラブ Youtube チャンネル

<http://www.youtube.com/user/jnpc?feature=mhec#p/search/0/aG6ByRZDTag>

©公益社団法人 日本記者クラブ

司会 会田弘継企画委員(共同編集委員室長) きょうは、エチオピアのハイレマリウム・デサレン副首相・外相をここにお迎えして、さまざまなアフリカ情勢等についてお聞きしようと思います。

お手元に大臣の略歴は行っていると思います。簡単に申しあげますと、もともとは大学の先生です。フィンランド、米国で勉強されて、大学へお勤めになって、96年から連邦議員。現在の副首相兼外務大臣の職には、2010年10月におつきになられています。

大臣からは、もちろん一番大事なエチオピアと日本の関係についてお聞きしますが、そればかりでなく最近の南スーダンの情勢や、皆さん関心のあるソマリアの情勢、それから、エチオピア経済は好調だということですが、その辺についてもお話が聞けると思います。

最初に、大臣のほうから、通訳を入れて30分ほど——英語では15分ぐらいになりますか——お話しいただき、その後質疑応答に入りたいと思います。それでは、大臣、お願いいたします。

ハイレマリウム副首相 ご紹介ありがとうございました。まず、我が国の状況について、また日本との間の2カ国の関係について、そして皆さんが関心をお持ちの地域、アフリカの話を行います。

エチオピアは、アフリカの中で2番目に人口が多い国です。非常に速い速度で経済成長をしており、報道でご承知かもしれませんが、成長速度という意味では、トップ3のうちの1カ国に入っています。

我が国の首都はアジスアベバです。しかし、我が国だけの首都ではありません。政治的にアフリカの首都ともいえるのがアジスアベバです。例えばアフリカ連合(AU)の本部とか、国連のアフリカ委員会なども拠点をここにしております。

アフリカの角にある我が国ですが、安定の孤島といいたいでしょうか、安定の島ともいえるところです。どなたでも、事業あるいは投資をなされたいのであれば、平和で安定しているので、安心して来ていただけます。

現在、成長の原動力は農業で、主に農業立国です。しかし、新しい5カ年経済計画がスタートしておりまして、これから鉱工業部門でもリーダーシップをとるべく、土台を築いていく予定です。

5カ年計画で工業化を推進

2010年から始めました5カ年計画です。略して「GTP成長変換計画」と呼んでおります。今回来日しましたのは、この5カ年計画に関しまして、日本の国益もかかわっているところがあると思いますので、ご支援のお願いにまいりました。我が国の成長のためには、日本からの技術移転をいただくことが極めて重要です。農業立国から、これから工業化を全面的に推進したいと思っています。日本には産業政策の支援で改善プロジェクトを実施していただいています。品質管理を強化し、生産性を高める。そのような意味での能力醸成、キャパシティービルディングが必要で、ここで日本の支援が必要なのです。

我が国はもともと大変平和で、安定的な国家ではあるのですが、地域全体の平和と安定についても重大な役割を果たしていると自負しております。“地域のため”を強く意識しております。アフリカの地域全体の平和、安定、治安のためにも、すなわちソマリアあるいはスーダン南部においても重要な役割を果たしています。

2カ国の関係で重視したいのは、インフラ開発における関係の強化です。どのような分野で投資をするにしても、インフラがないと始まりません。通信、電力、鉄道、道路などなど、このような大型プロジェクトには資金が必要ですので、この分野でも日本政府の支援を期待しています。

我が国の理念といたしまして、援助はアフリカの解決策にならないと思っています。重要なのは貿易と投資です。しかも相互にそれを行い、相互のために協力することです。したがって、日本との間でも、貿易、投資を拡大したいと考えています。

アフリカの角といわれる地帯における平和、安定、治安に、皆さんが関心をお持ちだと承知していますので、何点か、ソマリアも含めて申し上げます。

ソマリアについて、過去 20 年間、国家がもはや存在しないといいたまいますか、存在していたとしても破綻国家の状態が続いていました。が、ようやくトンネルの向こうに光がみえ始めたかと思えます。

支持を失った過激派のイデオロギー

アルシャバブを中心とした過激派が一番の問題となっております。しかし、この過激派組織もいま弱体化しております。間もなく敗北ぎりぎりのところにきております。なぜかといいますと、そもそも国民自体が、いまの指導者、政権にかかわって、アルシャバブを受け入れようとはしていないからです。

すでにアルシャバブはイデオロギーでも負けている。治安も管理することができない。軍事力でも負けつつある。せつかくの機会ですから、地域諸国が手をつないで、この機会を逃してはいけません。ここで打ち負かす。適切な形で戦って抑えることが必要だと思っています。政府間機構の I G A D（ジブチ、エリトリア、エチオピア、ケニア、ソマリア、南スーダン、スーダン、ウガンダ）、それから東アフリカ共同体（E A C ケニア、タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ）、これらが力を合わせていまこそ抑えたいと思っています。

すでに I G A D の機構のもとで、カンパラ合意に基づいたロードマップが示されております。最も重要な 4 つの分野が策定されております。第一に治安、次に政治プロセス、あるいは憲法制定プロセス、次に国会の改革、そしてよき統治です。

最も重要なのは政治的に改革をし、解決を見出すことだと考えています。そして治安が安定していれば、政治的なソリューションを実践に移すことにも役に立つと考えています。

ソマリアにとって、政治的な解決策が必要だ

と申しあげました。平和裏に解決をすることが重要です。すべての人が包括的に含まれる、だれもが取り残されないプロセスが必要だと思っています。しかも、そのステークホルダーといいますが、ありとあらゆる、例えば宗派の指導者、あるいは部族の関係者、NGO、市民社会、いわゆる知識層、あるいはディアスポラ、国内あるいは国外に散ったような人たち、すべての関係者が含まれなければいけない。

解決策には、本当の意味で統一されたソマリアと国家が必要です。つまり紛争は起こっていませんでしたが、連邦制度に入っていないところがあります。ソマリランドとかプントランドなどの地域が残っています。これらも手を携えることが肝心です。

治安という意味では、最近も前向きの動きがあります。政治的なプロセスも大変重要ですが、首都モガディシュのほうではアルシャバブを掃討できています。

地域においても、治安を改善する動きが最近起こってきております。例えばケニアに関していえば、アルシャバブ掃討作戦ということで、ソマリアの一部入っています。

なぜかといいますと、観光客などが過激派に拉致・誘拐されていたのです。ケニアはもともと観光で成り立っているところがありますので、ケニアの一国の経済が、過激派・アルシャバブのために大変脅威を受けてしまっているのが原因なのです。したがって、ケニアが安全街道とでもいえる場所を設置しようとした動きがありました。

いまこそソマリアからアルシャバブを一掃する機会だと考えておりますので、ケニア一国の問題ではなく、地域全体の課題として、地域一丸で取り組んでいきます。I G A D 機構に加盟するすべての国々でコーディネートして、また A M I S O M（アフリカ連合ソマリア・ミッション）、AU の部隊、それから T F G（暫定連邦政府）、各治安部隊等々すべてが力を合わせて、いまこそアルシャバブを追い出そうと考えています。

アルシャバブが早く一掃されるように、ソマ

リアの支援をすべての国がしなければいけないということで、IGADの首脳会合がつい先週開催されまして、そこで各国の合意がありました。

地域の調和を重視して掃討作戦を準備

ソマリアの和平プロセスを推進し、アルシャバブを一掃するということに関しまして、我が国もIGADから公式に依頼を受けております。

ソマリア掃討作戦という意味で、IGAD加盟国のすべての国がどのようにすれば力を調和させて、このプロセスにすべての国が参加することができるか検討中です。加盟国の軍の統合参謀本部議長すべてが集まりまして、AMISOMをリーダーとして、AMISOMを一つの司令部として、どのような戦略を立てたらよいか、いままさに検討が進んでいます。

このような努力が、アフリカの角、東アフリカ全体の統一と和平にとって極めて重要だと考えています。イデオロギー、思想としても統一していきたいし、経済計画についても、統一した地域となりたい。ありとあらゆるかかわり、2カ国間の関係、エンゲージメントについても統一したいと思っていますので、ソマリアの平和を実現することは、この地域だけではなく、世界にとって重要だという意識で努力をしております。

世界がソマリアと周辺海域における海賊問題について、懸念していることも承知しています。海賊というと、海の問題と聞こえるかもしれませんが、解決策は海には存在せず、やはり、陸上、ソマリアの国における平和を実現することによってしか解決はできません。ソマリアという国土が不安定である限り、海賊の問題の解決もできません。世界平和全体のためにも、海賊問題を解決するためにも、ソマリアの和平プロセスに世界中が支援することが重要です。

そもそも、この海賊の根本原因は、海に存在しているのではなく、ソマリアの国内、陸上にあります。いま現在、国際社会は海賊問題への取り組みとして、海で戦おうと、海で解決しよ

うとしているかもしれませんが、それでは対症療法というか、痛み止めです。本当の治療方法にはなっていません。本当の意味での治療方法を実現するためには、ソマリアという国内を安定化する必要があります。ぜひ全世界の皆様にもお願いをして、地域の人たち、地域の政府と力を合わせて、ソマリアという国全体の平和を進めたいと考えています。

平和裏に達成された南スーダンの独立

スーダンはいま、2つの国になりました。北と南スーダンと2カ国になりました。南のスーダンが平和的に、そして民主的な形で独立を成功させたということ自体が、アフリカの歴史にとって大変重要なポイントだと思っています。交渉も平和裏に行われた。対話と協議も平和的に行われた。だからこそ平和的な解決策を見出すことができた。大変重要な達成でした。

いま平和裏に独立を果たしたとは申しましたが、まだ残っている課題もあります。略してCPA（南北包括和平合意）とっておりますが、これはまだ一部履行されていません。この点について、最後までしっかりと詰めていきませんと、今後、紛争、暴力的な対立が起これかねません。

そのCPAの壁の一つとなっているのが、南と北の中間となっているアビエの地域です。これについて、正しくきちんと対処する必要があります。我が国も平和維持軍を派遣しております。こういう実質的な問題をきちんと解決しないと、本当の意味での平和と治安を実現できないと肝に銘じています。

この南と北の中間にあるアビエに関しまして、南と北、両者との交渉に関して、AUとIGADが緊密に連携をとっています。

もう一つ、地域としては北側のスーダンにある南部の地域に関しましても問題があります。

南部コルドファンとブルーナイルとの間の問題ですが、人民、国民との協議を実施していかなければなりません。これがまだきちんと行われておりません。これが放置されますと、武

力紛争が起りかねません。一時、武力的な紛争が続いておりましたが、現在は鎮静化しています。

AUとIGADも、この方面で大変緊密に協力しています。北スーダンにおける南部地域に関する当事者と、南側の当事者との間の交渉について、協力は続いています。これは本質的には、2カ国の対立ではありません。一つの国の中の問題になっています。北スーダンの中で分離が起こってしまっているという問題です。

SPLAM（スーダン人民解放運動）との間の戦いも続いてまいりました。およそ4万の部隊が各地に点在してまいりまして、独立を求めた戦いと紛争が続いてまいりました。いまそれが一つの国、北スーダンの中で起こっていますが、これについても適正に解決していかないと、火種が残ります。

両者間の交渉が、平和的にうまく進むことを期待しております。お互いに違いをわきに置いて、妥協することを期待しております。IGAD、AUとしても交渉をサポートしています。

いろいろ申しあげましたが、ざっくりいいますと、南スーダンも北スーダンもそれぞれに平和ではありますが、一部問題がくすぶっている。あるいは潜在的に残っているところがありますので、それを適正に対処しないと、問題になる可能性もあります。

もう一つ、地域の問題を起こしているのがエリトリアの政権です。IGADから国連安保理等、国際社会に対しまして協力を呼びかけているところです。制裁は課されていますが、期待された成果があがっていないこともありまして、早ければあすにも制裁の強化、もしくは追加制裁の決議が安保理で行われるかもしれません。

ソマリア問題についても、エリトリアの立場が問題を起こしています。アルシャバブが彼らを支援しておりまして、国際社会全体でエリトリアを啓発、啓蒙することによって、アルシャバブのような存在からの支援を、いかなる形であったとしても停止しなければならないということを教える必要があると考えています。

ソマリアだけではありません。ジブチに対し

ても、エリトリアの一部が入り込みまして、平和を脅かしています。皆さんも一部、報道等で聞いたかもしれませんが、国連安保理のモニタリンググループがエリトリアの状況を調査し、問題を起こしている点について報告はなされています。

いまIGADは声を一つにまとめて、国際社会に、この地域では安定を脅かすものではなく、平和が必要だと訴えております。アフリカで必要なのは、不安定化要素ではなく、開発であり、貧困の撲滅、よき統治、民主化です。これについては考えも明確で、その政策もはっきりとしております。IGADでは平和と安定が必要であり、それはアフリカ全体の平和と安定につながり、かつ経済的な反映と民主化の促進につながると感じています。

さらなるエリトリアへの安保理関与を

対エリトリアで、2カ国間で暴力を行使したいと考えている、地域の国はどこにもありません。であるからこそ、国際社会、例えば安保理等にアピールをしている次第です。地域の平和と安全の問題ですから、国連安保理にも責任があります。国連安保理が制裁等の措置を導入することが役に立つと期待しております。エリトリアには、振る舞いをぜひ改善していただきたい。政策を、安定を脅かすものから協力、そして平和と和解を実現するものに、エリトリアには変えていただきたい。

南スーダンの開発と安定化のためにも、自衛隊の施設部隊のジュバへの派遣は、非常にいい動きだと考えております。エチオピアとしても、それから地域全体としても可能な限りの支援をする用意があります。ダルフル、アビエについては、我々のプレゼンスがもともとありますので、ぜひ日本の皆さんと協力をして、当初の目的がかなうようにしたいと考えております。

我が国は安定化という意味では、いま正しい道を歩んでいると考えています。治安、平和という意味だけではなく、経済成長でも正しい道

を歩んでいると考えております。なので、急成長を遂げていますし、より安定的に、より平和に向かいつつあります。しかも、我が国一国のためだけではなく、近隣諸国、地域全体のためを考えて、正しい道を歩んでいるつもりです。

そのため、日本の投資家の皆さんにもぜひ投資をしていただきたいと思いますと考えております。日本以外の多くの国からはすでに進出があり、プレゼンスが大きくなっています。日本の皆さんにおかれましても、ぜひ日本にふさわしい投資、ビジネスのシェアをとっていただきたいと思います。特に民間部門の皆様の投資を誘致したいと思っています。

司会 どうもありがとうございました。（拍手）包括的な地域情勢の説明をしていただきました。いかにエチオピアが戦略的に重要な場所にあるかということが、いまの話でよくわかったと思います。ご紹介がおくれましたが、メインテーブルの皆さんから向かって左側になりますが、同席していただいているのはエチオピアのマルコス・タクレ・リケ大使です。

《質疑応答》

質問 お話だと、アルシャバブの掃討のために、今後ソマリアに進軍するということだと思うんですけども、これはいつごろから、どれぐらいの期間をかけて軍隊を出すことを想定しているのか。あと、一部報道で、11月にすでにエチオピア軍がソマリアに進軍したというのがあったんですけども、これについての真偽を確認していただきたい。

ハイレマリアム副首相 個別で対応したいとは思っていません。ソマリアに対しては、地域全体の問題ですので、地域として統一した動きをとろうと思っています。その場合、主導権を発揮するのはあくまでもIGADという機構、組織です。AUの平和維持部隊であるAMISOMが軍事作戦を策定し、軍事部隊はAMISOMが主導します。そのAMISOMのもとでほかの国々がそれぞれの貢献をするという形で

参加することはできます。

IGAD地域諸国から要請がありまして、我が軍も出動を求められています。が、個別に動くのではなく、あくまでも地域からの要請と、地域の作戦の一環として出る用意があります。

ただし、報道は間違っておりまして、我が国はまだ進軍はしておりません。各国の国防当局で、統合参謀本部レベルでの戦略等がきちっと決定され次第、我々も進軍する用意があります。掃討作戦に貢献する用意はできていますが、我が国が単独で主導権を発揮しているのではありません。戦略、戦術、双方とも地域として対応し、AMISOMプラス地域部隊が力を合わせてやっています。

ケニアは、すでに進軍していますが、本来は地域の計画の一部として動いてもらいたい。各国がばらばらに動きをとりますと、期待された成果は実現はできません。これまでの教訓、間違いを学習する必要があります。統一した動きをとらないと、きちんと打ち負かすことができません。

一方で、アルシャバブ側ではさまざまなプロパガンダ、あるいは手口で、我々の地域の分断を図ろうとしています。それに乗ってしまえば、我々の作戦の効果も減じてしまう。あくまでも政治的に、軍事的に正しい戦略をとる必要があります。

我々としては進軍することにためらいがあるわけではありません。地域の合意があれば、きちんと対応する用意はすでにできております。ただ、計画も、設計も戦略も正しくなければなりません。そうしませんと、完全な撲滅、掃討を図ることはできない。

アルシャバブは、我が国がすでに進軍していると、各方面にいいふらしているのだと思います。それは、我が国がもし登場した場合にどうなるかがわかっているからこそ、その恐怖の故だと考えております。

あくまでもコーディネートをする形で行います。恐らく長くはかからない。せいぜい2~3週間程度で完全に掃討できると考えております。

ただ重要なのは、いなくなればいいというこ

とではなく、その事後です。政治的に、だれが真空状態を埋めるのか。どのように政治組織をつくっていくのか、軍事的な問題は全てではなく、ほんの一部でしかありません。掃討自体は簡単にできる、その後のことを考えています。信頼性がある政府、きちんとした公共サービスの制度を実現し、どの国民の目からみても、アルシャバブよりもTFG（暫定連邦政府）のほうがいいということをおぼえてもらう必要がある。

質問 各国の統合参謀本部議長がいろいろと調整しているということなんですけれども、実際、その調整が終わるまでどのくらいかかるのか。

ハイレマリアム副首相 ざっくりいえば、せいぜい1〜2週間ではないでしょうか。それほど長くかかるとは思いません。もちろん早く決まれば決まったほうがよいとは思いますが、だからといいまして、きょうとかあすということも、いまの私にはいうことはできません。いま検討しているのは、政治的な問題ではなく、戦術的、技術的な話ですので、それほど長くはないと思います。

質問 エチオピアの北側、スーダン南部のブルーナイルのほうからエチオピアにも難民が流入してきている状況があると思います。その状況は、いま増えているとか、減っているとか、どれぐらいの方が逃げてきているのか。

ハイレマリアム副首相 ブルーナイルの地域から難民は我が国に来ていますが、2万程度だと思います。この数字は、私が先週木曜日に出発した時点でのレベルです。増えてはおりません、というか、減っております。戦闘が終わっておりますので、多くの人たちは帰還したいと思っております。傾向としては減っています。

質問 3点お聞きします。まずアルシャバブが弱くなっている原因なんですけれども、エリトリアの支援が減っているからなのか。エリトリアをカダフィー大佐が支援していたが、そのカダフィー大佐が倒れた。これが大きいんでしょうか。カダフィー政権の崩壊というのは、アフリカの角と呼ばれる地域の安定に影響してい

るんでしょうか。

2点目です。アルシャバブが弱くなってきた原因のもう一つですが、アフガニスタンにいるアルカイダがビン・ラディンが死んだことで弱っているからではないか。アルカイダの弱体化も関係あるんでしょうか。

3点目は、干ばつです。雨が降らなくて大変なことになっている。このことが、アルシャバブの弱体化に関係あるんでしょうか。

ハイレマリアム副首相 解析ありがとうございます。全部が影響していると思います。おっしゃった3つともが理由です。エリトリアも貧しい国ですから、もともと軍事力、あるいは武器、資金などの手当が自前だけでできていたわけではありません。それだけでなくリビアの不安分子等がエリトリアを拠点にしていたというつながりもありまして、リビアがだめになったということは大きなインパクトがあったと思います。

また、ビン・ラディン本人が亡くなったことだけではありません。アルカイダ、ソマリア代表も命を落としています。モガディシュで殺されました。

また、干ばつもおっしゃったとおりです。そもそも徴税等を徴収することによって、アルシャバブは資金源としていたんです。干ばつによって、地域住民と国民の所得がないということで、アルシャバブ自体が資金不足に陥っているという原因があります。

ただ金でもなく、軍事力でもなく、やはりイデオロギーの敗北が最も大きな関係だと思います。イデオロギーが地域、国民にサポートされていた場合には、金があろうとなかろうと関係がなく、それは生き延びてしまう。もしイデオロギーを国民が信じていれば、おそらく命をかけて戦い続けてしまうと思います。

肝心なのは、国民がもう飽き飽きとしていて、過激的な思想を拒絶しているところがポイントです。だからこそ、いまこういう展開になっています。彼らがどれだけ武力を行使しようと、あるいは力づくで何かしようとしても、地域の人がそのイデオロギーを信奉していたらどうに

もなりません。

国民は、アルシャバブが述べているイデオロギーが、もう打ち負かされたものだと考えている。あれに従っても意味がないと国民が考えていることが一番大きなファクターだと思います。

だからといいまして、過激的なイスラム思想をすべてのソマリア国民が放棄したというわけでもない。確かに信じ続けている人はまだいるかもしれませんが、日々刻々と信奉している人たちは減っている。あのイデオロギーをフォローしたのでは、民主化にならない、自由にならない、どちらかといえば抑圧的であるということ、多くの人たちはわかってきている。だからこそ、この機会を我々はガッチリとつかんで行動を始めて、完全に、完璧に、もうこれっきりということ、掃討しなければなりません。

質問 東南アジアにも同じように、マラッカ海峡の海賊問題がありますが、おっしゃっているIGADを通じた解決というアプローチでは、中心国というのはやはりエチオピアであり、あるいはケニアであるというぐあいに考えていいのでしょうか。その主力となるメンバーを教えてください。

ハイレマリウム副首相 ASEANあるいはアジアの経験をお話いただきまして、ありがとうございます。ただ、やはりアフリカとは状況が違うと思います。まず、我が国は内陸国です。海には接していません。そういうことで、海軍もありません。直接我々が海賊対策で何かできるわけではない。海の方面については、国外の力に依存することになります。

我々が貢献できるのは、あくまでもソマリアの国内、陸上においてです。先ほど申しあげたように、根本原因は国内にあるので、そちらで貢献したいと思います。

ケニアには海軍があるので、海における必要なプロセスをサポートすることはできると思うので、その意味で、ケニアと我が国が競合しているということはありません。

海賊が頻発しているあの海域については、地元住民よりも国際社会にとって死活的に重要なわけです。皆さんにとっての行路として非常に重要なわけです。国際的な回廊ですから、その点についても、国際社会の役割が大事だと考えています。

我が国に関していえば海賊と戦うどころか、国内に必ずしも十分な学校がないという状況です。海に出ていって、金がかかる海賊との戦いを行うよりも、国民の教育、衛生的な水、保健サービス等、先にしなければいけないことがあります。まずは国内での開発を重視しています。ただでさえ足りない資金をやみくもに海賊対策に充てることはできない。

そのように、大変厳密に、冷静に計算をして、我が国の限られたリソースを配分しています。

一方で、国際社会、特に日本を含む大国においては状況が違うと思います。リソースも資金もあるはずで、海賊対策について、ぜひきちんとコーディネートをした動きをとっていただきたいと思います。

それに関しては、領海あるいは領土が近いということもあるので、我々も必要な手助けはしたいと思います。が、主導権を握って海賊と戦おうという意図はありません。その点がアジアのケースとは違うと思います

司会 地域の情勢がよくわかりました。大臣、きょうはどうもありがとうございました。（拍手）

（文責・編集部）